

週刊 かわら版

生徒と保護者のための



皿を割れ

いよいよ、今年度も終わり。ひとくぎりである。今週の努力目標は今年度の反省と来年度の目標づくりだった。

どんな一年を過ごしただろう。「思春期だから」だけで、済まされない思いをした人もいるかもしれない。

時に、「反省」と「悩む」とをこっちゃんにしている人もいる。反省しても悩む必要はない。悩むとネガティブになり、次々と落ち込んでいく。「私がくまモンの上司です」を読んだ。著者は、農協職員を辞め、ハーバード大学を卒業後、東京大学教授を経て熊本県知事となった浦島郁夫氏。全国的に「くまモン」を有名にした仕掛け人である。その中で印象的だったの



先見コーナー

- 3/24(金)○修了式
- 3/25(土)
- 3/26(日)○自専攻科2級整備士国家試験
- 4/06(木)○始業式 ○新任式
- 4/07(金)○入学式
- 4/10(月)○新入生オリエンテーション(～14日)
 - 着こなしセミナー(5限)・エゴグラムテスト(1年)
 - 第1回実力考査・SPI・第1回進路マップ(2・3年)
 - e-プレップ科2年帰国日
- 4/11(火)○第1回実力考査
 - 自専攻科合宿研修(1・2年)～(12日)
- 4/14(金)○進路マップ(専1年)
- 4/15(土)○土曜補習(e・プ・特)
- 4/16(日)○春季情報処理技術者
- 4/17(月)○全校朝会
 - 家庭訪問・教育相談～21日
- 4/18(火)○検尿(～19日)
- 4/19(水)○第1回代議委員会

次のかわら版1号(通算63号)は4月6日 始業式の日に発行予定です。

どんどんとチャレンジするところが大切なだと述べていた。来年度、どんなチャレンジができるのか、この春休みの間、しっかりと計画をしてみたい。

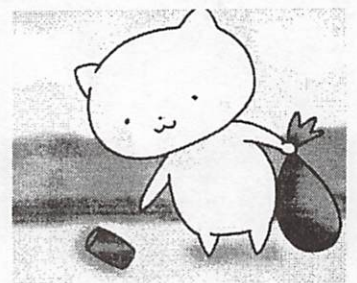
赤十字 百文字作文から

本校からは、1000を超えてる作文が提出された。県内で一番多く、学校賞をいただいた。金賞、銅賞の個人賞もいただいた。近いうちに冊子になってくるだろう。全部の作文にしっかりと目を通した。そして今年もたくさんの素晴らしい作文に出会った。個人

的に気に入った作文があったので、紹介したい。

◎私は、落ちていたゴミを拾います。ある方が言っていました。「目の前に落ちていたゴミを拾えない人は、大きな夢もつかめない」私は、この言葉を聞いて、毎日ゴミを拾うことを心がけています。

◎あの子に声をかけてみよう。簡単に思えるが実はとても難しい。初めはおはようからでもいい、明日はバイバイと手を振ろうかな。私の一言であの子が少し笑った気がした。そうだ、今度は一緒に



お弁当に誘ってみよう。

◎元気がない時、家に閉じこもりたくなる。でも、いざ、窓を開けるととくさんの花が咲いている。私が、毎日、外に飛び出せるのは、たくさんのお友達のおかげなのだ。いつか、この花たちの水のような存在に私はなりたい。

大切なお知らせ

◎県育英財団奨学生の継続願い書提出
4月6日(木)に提出
◎校納金清算の案内文書
該当生徒の家庭に配布

編集後記

先週のかわら版の発行、24号の記載がありました。訂正いたします。26号で今年度の発行は最後です。発行日と学校行事のタイミングがあわずに、昨年度よりもペースが落ちたようです。来年度も引き続き、発行を予定します。よろしくお願いたします。

清流

炒めたベーコンに分厚い大きな焼きたてのパン、コーヒー。パンにベーコンの肉汁をかけ、コーヒーに砂糖を入れる。綿つみの仕事を季節労働者たちが「こいつはうめえや」とパンにかじりつく。

『怒りの葡萄(ぶどう)』で知られる米国の作家スタインベックの短編『朝めし』である。テントで暮らす男たちが、日の出前に屋外で朝食を食べるといふシンプルな主題。香ばしいパンのにおい、ベーコンのジュージューという音の描写がなんとも忘れない。たい▼台所からトントンと聞こえる包丁の音に目覚める人もいるかもしれない。それぞれの朝がありそうである▼「春眠暁を覚えず」と中国の唐の時代に活躍した詩人・孟浩然は詠んだ。その意味は諸説あるようだ。「春の朝は心地よいので、つい寝坊をしてしまつて、夜が明けるのがわからなかった」とするのは凡人の解釈だろうか▼その春眠に負けて、朝食をおろそかにしてはいけない。朝食の効果は栄養摂取だけでなく、一日の心身のエネルギーのもとであり、エネルギー代謝を促しダイエットに効果的だといふ。何よりも体内リズムを整う▼「こいつはうめえや」と元氣よく「朝めし」を食べる習慣が大切である。